

【佳作】

心の裏

ひし形の穴 心臓に
あけられたまま
都会なんかを 歩きたくない
ばらばらと崩れ落ちさせられた
縫い目の 裏の 小さな綻びを
つなぐ 犬のように

窓ガラスには
少女の 青い 淡い 爪が一枚と
まだ洗礼を受ける前の
自分ではない顔
赤い花束と給料袋

せなか おなか
未分化の部分に
新しいシャツを被せる
羊毛のような気持ちで仕事をしたい
あくびをする

八時五十三分 八王子線
もうめくるページがないそれ
増えることをやめた羊

地獄へ落ちた同級生
からからと引く大車輪
という空言

地面に触れる
透明になる
悲しいとお金になる
ポッドから涙を注ぐみたいにも
もああと湯気が立ちのぼる
背後 羊たちの足音が聞こえる

コメント

労働にでかける朝の情景をイメージして作りました。大学を出て多くの人と同じように自分も労働者になると思うとたまに心がヒヤつきます。もちろん嫌なことばかりではないんでしょうが先行きは不安です。でもそんな時でも心の自由さを失いたくないと思い、こんな詩を作ってみました。読んで頂きありがとうございます。

法学部 法律学科4年 岡村郁人